

# 新入學生諸子に告ぐ

學博士 長 神 戸 正 雄

茲に私は、俱に學び俱に進むべき多數の新入學生諸子を迎へて此上もなき喜びを感じる。諸子が斯くて高等教育を受け得るに至りたるにつけ、先以て父母の恩、そして國家の恩に感謝しなければならぬ。又、父兄方に於かれては、御心配の種でもあつた子弟方の入學が叶つたことにつき御満足と存するが、入學後の子弟方の教導については當方に一任を乞ふ。固より私達が行届勝であり、學校の施設も完備とは申兼ねるが、私共として力の限りの御世話は致す積りだから、御信頼を乞ふ。

入學生諸子に於ては入學試験の難關を経ただけに、自らの力に相當の自信を有つて良く、自愛自重して益々奮勵努力されたい。但し、動もすれば入學試験を受くる爲めには懸命に勉強するが、之を通過したる後にはやれ〜といふ氣

持を起して怠け出すもあるけれども、其は不可。今後の在學中の試験にも力を入れ、更らには卒業後も、人は一生涯、常に試験を受けつつありとの自覺を持ち、瞬時も緊張を弛めてはならぬ。しかし修業中に、試験の成績に重きを置いてはならぬ。點數、席次に拘泥せぬこと、専ら實力をつけるやうに心掛ける。記憶も固より大切だが、其よりも、考へる力を練り養ふのが大事である。怠けては不可だが、過度の勉強は斷じて不可。修業中に精根を盡して、世の中に出て働けぬやうでは修學が無駄である。適度の運動、適度の休養、適度の娯樂を取りつつ、適度に勉強することが肝要である。教練にも力を入れ、報國團の運動鍛錬にも力を入れられたい。政治運動や社會運動に参加するのは修學中の者として勉強の妨げである。参加されない事を望む。

大正十一年六月十五日創刊  
昭和十七年四月十日印刷  
昭和十七年四月十五日發行  
編輯人 神 戶 正 雄  
發行所 大 阪 市 北 區 堂 島  
上 三 丁 目 十 五 番 地  
甲 別 所 谷 口 甲 別 所  
中 通 二 丁 目 十 二 番 地  
大 阪 市 東 區 南 區 長 崎  
會 員 登 録 番 號 二 〇 六 〇 〇 四

第一八九八號 目 要 號

入學生諸子に告ぐ	神 戸 正 雄	(一)
學 內 報		(三)
昭和十七年度入學試験問題		(三)
本學年度學科目担任表		(四)
校 友 欄		(二)

大學生は研究者たるの態度にて修學すべきで教はつた事を其儘鵜呑にしてはならぬが、さりとて先生は諸子よりも一日の長であり、否な十年、數十年の長でもあるから、先生其人を、そして其教をも敬ふの態度を失つてはならぬ。大學に於ける研究は眞理の探究であり、其の爲めには自由に又徹底的に行はれることが望ましいともするが、此自由には限度があり、我が國體の尊嚴を冒かすことは斷じて許されない。現下の時局認識を誤まり、既定國策に反抗する意見の發表も亦許されない。

學校では學業の修得を中心とはするが、其も智識を授けるのみではない。同時に諸子の身體の健全なる發育にも努める。其爲め體操の課程もあり、教練が之にも役立つ。報國團の運動もまた之に役立つ。諸子の身體は諸子にとりてのみ大事なのでなく、諸子は之を父母より受け父母の心配の種であり、國家としても大切な寶とする所である。之を粗末にし乃至、之が發育に不用意であつては不孝であり不忠でもある。

諸子が前途には國家から負荷されたる大任を有つ。其を果たすには、身體が丈夫でなければならぬ。如何に優れたる才能があつても、身體が弱くては役に立たぬ。先づ身體を丈夫にするこ

とに氣を付けなければならぬ。しかし運動ばかり耽り過ぎて勉強を留守にしては、折角高等教育を受けることが意味を失するやうになる。適度の運動を行ふのが最も望ましい。

學校に於て、もつと大事なことは報國精神の涵養であり、道義精神の修養である。如何に學才高く、身體が丈夫であつても、道義心を缺き、國家觀念が乏しいやうでは重きを成し、人の中の人として指導の地位にも立つ人とはなれない。道義心厚く國家觀念確かな人を養ふことが本學の最力を入れる所である。諸先生が智識を授けらるゝ間にも、其に附帶して、此事に留意されつつあると信ずる。凡そ道義は心の誠から出る。誠の心がしつかりとしてあれば、君に對し國に對しては忠となり、親に對しては孝となり、師を敬ひ、友を愛し、更らに一般社會の人にも親切となり得る。兎角、人は身近かの人には、相當、氣を付けて親切にするが、不知の他人に對しては動もすれば不親切となり勝である。しかし本當に心に誠さへ有ち得たら、其等一切の人に對しても、能く親切になり得る。路傍に於て、汽車電車の中に於て、人が困つて居れば之を助けてやり、また他人の迷惑となることを慎むことにもなる。諸子は此心掛を有ち、又直ちに實行するやうにあつて欲しい。

今日の學校に課せられたる任務として最大のは報國精神の涵養である。其からいふて、學校は皇國民練成の道場でなくてはならない。凡そ日本國民たる吾々は、凡べて皇國民たるを自覺して、皇國の爲めに、各自の有つ凡べてのもの、有無形の凡べてのものにて、凡べての力にて奉仕するのが其最高使命である。國の爲め

の爲めとあれば潔よく死んで往くといふ心掛を有たなければならぬ。時によりては生きては生き恥をかき、唯だ死ぬることのみによりて生き甲斐のある生を完うし得といふことがある。此道は米英人には判らぬことで、日本國民のみが眞に體得して居る道である。しかし死するのみが皇民の道ではない。多くの場合むしろ生きて、生き抜いて、精一杯に國の爲め君の爲めに奉仕し盡すことも、踏むべき道であり得る。死ぬるも、生きるも、働くのも、凡べては君國の爲めであり、其の有つ凡べてのものにて奉仕する。最大最善の奉仕、國家への奉仕が日本國民生活の第一義である。其も報酬の有無大小を超越して、國の爲めに盡さざるべからざるが故に盡すといふでなくてはならない。固より人が奉仕をすれば報酬として相當の名譽とか地位とか、物質的収入とかが伴ふて来るではあらうが、實際には此が必ずしも、其に相當したものと限らぬ。しかし其報酬が假令無であつても、小さくあつても恨みなし、悔なしといふ心持を有たなければならぬ。或は人間性には利己心が離れられないものだから、到底、報酬無しで満足することは望まれないといふが、しかし人間性の中には利己心ばかりでなく、もつと高い神のやうな性質、公に奉じたい性質も潜在する。修養次第では報酬を伴はずして満足することの出来るやうにもなり得る。私自らの乏しい経験の中からでも、或仕事に對して褒賞されたとき、之を恥しくも感じ、之を過分とし、借越の氣持ともなり得る。却つて陰徳を施し、又、報酬を伴はざる仕事を爲したるとき、貸越を有つた氣持となり、心中、自分獨りで大なる滿

足を感得るのである。吾々は修養により此の如き心持にて奉仕第一を務めることが出来る。時代は利慾鬭争の時代から奉仕鬭争の時代とならうとして居る。立身出世の爲めに學問する時代は過ぎた。諸子は今後、國家への奉仕を第一目標として修學し、以て時代の先頭に立つて活躍することを期されたい。

此報國精神の地盤となる大事なことは質實剛健の態度である。學生中に華奢な風態をも見るが、此は斷じて不可。形の上からも質實剛健でありたい。簡素は日本の三千年來の特徴である。そして今日の戦時下に、戦争の爲め物資が必重大なるとき、銃後者として皇國の爲めに簡素を旨としなければ濟まぬ。父兄の負擔を軽くする上から子弟の務めとしても然るべきである。大東亞戰の戦果として段々物資豊かになるとも見通はされるが、此も國防上、文化及經濟建設上に十二分に使ふやうにし、國民の私生活には簡素を貫くのが望ましい。有るに任かせて、又は貪り搾取して驕奢の生活をするのは米英の後を追ふものである。其は國民の戦闘心を失はしめる源である。亡國の第一歩である。

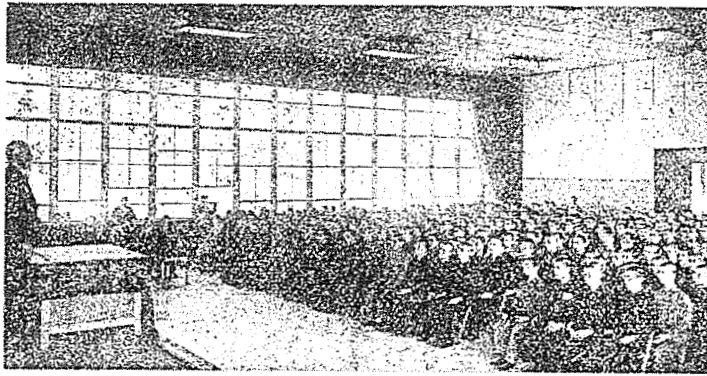
今や大東亞戦争によりて我國威の及ぶ所は廣大となり、諸子の卒業後活動すべき舞臺は廣く、諸子の前途は洋々たりである。諸子は時間的にも空間的にも洵に生き甲斐あり働き甲斐あるときに生れ合せた。諸子は此前途に希望をいだき、在學中、常に父母の心事を忘れず、特に國家の大事を肝に銘し、報國精神に徹し奉公第一の目標にて無事に勉強を続けらるることを期望する。



# 學内報

## 入學式舉行

昭和十七年度各部入學式は、學部は四月一日午前十時千早山威徳館に於て、大學豫科は四月二日午前十時より豫科講堂に於て、専門部一部は四月四日午前十時



豫科入學式

専門部二部は同日午後五時より専門部講堂に於て舉行、神戸學長の式辭の後、夫々各部入學生の宣誓ありて閉式した。

## 人事異動

補法文學部長 教授 武内 省三  
 補經商學部長 教授 磯部 喜一  
 任期滿了ニツキ法文學部長ヲ免ズ 教授 堀 正人  
 任期滿了ニツキ經商學部長ヲ免ズ 教授 水谷 揆一  
 兼任學部學生主事 教授 安藤 光  
 同 教授 瀧澤喜千雄  
 學部學生主事ヲ免ズ 教授 野村 次夫  
 同 教授 磯部 喜一  
 同 助教授 植田 重正  
 同 (専門部勤務) 講師 菅 守常  
 同 (豫科勤務) 講師 上道 直夫  
 同 (豫科勤務) 講師 三谷 友吉  
 依願解職 教授 赤羽豊治郎  
 同 書記 田所 留三  
 學部豫科會計課勤務及豫科事務兼務  
 書記 尾崎 信夫  
 ヲ命ズ 講師 眞鍋 義雄  
 澤鴻 久敬  
 丸谷 喜市  
 鈴木 周作  
 谷 友幸

(以上三月三十一日附)

囑任講師 (専門部) 吉永 登

(専門部) 安田 信一

(豫科) 木村 武夫

(以上四月一日附)

依願解職 書記 高嶋 義一

(三月二十八日附)

## 通常協議員會

昭和十六年度財團法人關西大學の通常協議員會は、去る三月十九日(木)午後五時より新大阪ホテルに於て開催、昭和十五年年度歳入出の決算、昭和十七年度豫算の承認、寄附行爲一部改正につき調査委員の選任ありて散會。

尙調査委員は左記の諸氏である。

黒田莊次郎 吉田 音松 神戸 正雄  
 矢口 家治 武田 直英 内藤 正剛  
 増山 志次 竹田 省 岩崎 卯一  
 遠部逸太郎 川崎齊一郎 永田 良雄  
 村尾 靜明 松本 靜史 關 豊馬

## 配屬將校更迭

本學學部豫科配屬將校平尾末吉大佐は今回轉任され、後任として本學専門部勤務の佐藤忠七大佐が就任、又専門部へは壹岐満志中佐が新任せられた。

## かくほう抄

▽佐伯三郎教授―豊中市櫻塚元町五ノ一  
 四と町名變更

▽黃廷富講師―東淀川區國次町三六九に轉居

昭和十七年度

## 入學試験問題

(豫科・専門部)

### 第一大學豫科

#### 國語

- (一) 次の文を解釋せよ  
 人情は愚を賞ぶ。益々愚にして益々至れるなり。若し理を以て言はば、死人は魂魂すでに去る、之を原野に投ずるも可なり、之を狐狸に飽かしむるも可なり。而して人情を如何にせん。
- (二) 國史に於ては維新はあるが、革命は絶對にない。
- (三) 山はさけ海はあせなむ世なりとも君にふた心我あらめやも
- (四) 次の文中片假名の部分に漢字を宛てよ
- (五) 和は一切のムジユン對立をメツキヤクし、萬物をユウガフせしめたもので、マイコンクを意味するものではない。それは各自がその特質をハツキし、葛藤とセツサタクマとを通じて、克ク一に歸する所に生じ、ハツラツとして物のハツテンに即して現はれる。

#### 漢文

一、左の文章に送假名を附し且つ一符のある句を解釋せよ。  
 人之居世。自古不<sub>レ</sub>滿三百歲。  
 安能<sub>レ</sub><sub>レ</sub>久在此乎。吾欲<sub>レ</sub>假<sub>レ</sub>道  
 致國<sub>レ</sub>超<sub>レ</sub>越山海<sub>レ</sub>直入<sub>レ</sub>于明<sub>レ</sub>使其  
 四百州<sub>レ</sub>盡化<sub>レ</sub>我俗<sub>レ</sub>以施<sub>レ</sub>王政<sub>レ</sub>於億  
 萬年<sub>レ</sub>是秀吉<sub>レ</sub>宿志也。凡海外<sub>レ</sub>諸  
 蕃<sub>レ</sub>後至者。皆在所<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>釋。

本學年度學科目擔任表

法文學部

法律學科

社會學、社會政策	岩崎 卯一
經濟政策概論	磯部 喜一
債權總論	石田文次郎
東洋倫理學	石濱純太郎
英法、信託法	本莊鐵次郎
支那語	與平定世
英法、物權法、法律學演習	和田 豊二
佛語	加藤金次郎
法律學演習	吉田一枝
哲學、西洋倫理學	武内省三
保險法	武田藏之助
會社法、手形法、小切手法	竹田 省
東亞問題	谷口 吉彦
英法	谷口 知平
國際公法(戰時)	恒藤 恭
行政法總論、行政法各論、法理學、法律學演習	中谷 敬壽
債權總論	中島 玉吉
日本文化史	魚澄惣五郎
獨語	上道直夫
獨法、商法總論、商行為、法律學演習	野村 次夫
佛法、國際私法	柳瀬 兼助
民事訴訟法	山田 正三
支那文化史	矢野 仁一

獨法、法律學演習	山本 戶克巳
日本法制史	牧 健二
經濟原論	正井 敬次
獨法	福島 四郎
英法、海商法、法律學演習	安藤 光
民事訴訟法、破産法	齋藤常三郎
憲法、自治行政	佐々木 惣一
刑事訴訟法、法律學演習	佐伯 千仞
佛法、親族法、相続法、法律學演習	木村 健助
財政學	三谷 道麿
獨語	三谷 友吉
刑法總論、刑法各論	宮本 英脩
國際公法(平時)	末廣 重雄
民法總則	末川 博

政治學科

政治學、社會政策、政治學、政治學演習、政治學特別問題	岩崎 卯一
工業政策、經濟政策概論	磯部 喜一
政治史	池田 榮
東洋倫理學	石濱純太郎
外國經濟事情	岩井 良太郎
統計學	蜷川 虎三
信託法	本莊鐵次郎
支那語	與平 定世
政治書講義	川上 敬逸
簿記、佛語	加藤金次郎
政財學	神戶 正雄

文學科哲學專攻科

政治學史	吉田 一枝
哲學、西洋倫理學	武内 省三
簿記、商業政策	瀧澤 喜子
會社法、手形法、小切手法	竹田 省
東亞問題	谷口 吉彦
國際公法(戰時)政治學特別問題	恒藤 恭
行政法總論、行政法各論、法理學	中谷 敬壽
植民政策	中村 夏之助
親族法、相続法	中島 玉吉
日本文化史	魚澄 惣五郎
獨語	上道 直夫
商行為、商法總則	野村 次夫
政治學	黑田 覺
國際私法	柳瀬 兼助
支那文化史	矢野 仁一
經濟原論	正井 敬次
日本法制史	牧 健二
政治書講義	藤本 進治
債權總論	福島 四郎
日本經濟史	黑 正 殿
海商法	安藤 光
憲法、自治行政	佐々木 惣一
債權各論、物權法	齋藤常三郎
民法總則	木村 健助
獨語	三谷 友吉
刑法總論、刑法各論	宮本 英脩
國際公法(平時)、外交史	末廣 重雄

二、同前

勤儉二者、治國保家之道也。怠奢二者、亡國破家之道也。蓋勤業者、不怠惰以失時。儉用者、不奢侈以傷財。凡振古以來、家國之興也、無不由于勤儉者上其亡也、無不由于怠奢者也。

英文和譯

(I) It is pleasant, and sometimes helpful, to talk over our plans with a friend; but we must remember that it is we ourselves who must make the decision.

(II) The union of machinery and steam power brought about great changes in industry. Production on a large scale became possible. Articles could be made at a speed very much greater than had been possible when all the work was done by hand.

(III) Since the home ought to be one of the pleasantest places in the world, it is the duty of every member of a family to try to make it so. Rude ways of acting and speaking, which would be faults anywhere, are greater faults at home than anywhere else.

日本史

(一) 鐵砲の傳來

(二) 古事記傳

(三) 江戸時代に於ける日蘭關係

政治史	池田榮	東洋倫理學、支那文學
美 學	石濱純太郎	ラテン語
拉典語	井島勉	文學概論、英文學
東洋哲學特殊問題	林憲一郎	英文學
文學概論	本田成之	英語學
認識論、哲學演習	堀正人	佛 語
宗 教 學	大小島眞二	宗教學
財政學	片山正直	佛 語
哲學、倫理學、西洋倫理學	神戶正雄	哲 學
哲學演習、倫理學演習	武内省三	心理學
東洋倫理學、特殊講義	高瀬武次郎	英文學
行政法總論	中谷敬壽	獨 語
心理學	內藤耕次郎	文 明 史
政治學	黒田覺	英文學
文 明 史	矢口孝次郎	教育學、教授法
經濟原論	正井敬次	獨 語
獨語、哲學演習	藤本進治	佛 語
憲 法	佐々木惣一	西洋美術史
教育學、教授法	三枝樹正道	
西洋哲學思想史、哲學史	宮崎幸三	
西洋哲學思想史	下程勇吉	
東洋哲學思想史	新町徳之	
社會學特殊問題	姫岡勸	
哲學講義、西洋美術史	菅守常	
論理學、論理特殊問題		

文學科英文學專攻科

言語學	今川太郎	信託法	本莊鐵次郎
ラテン語	林憲一郎	支那語	與平定世
文學概論、英文學	堀正人	佛 語	賀來俊一
英文學	細江逸記	會計學、簿記、佛語	加藤金次郎
英語學	大平頼母	國際公法	川上敬逸
佛 語	賀來俊一	財政學	神戶正雄
宗教學	片山正直	英語經濟學研究、交通經濟學、經濟學演習	河村宜介
佛 語	加藤金次郎	憲法、政治學史、行政法各論、政治學論	吉田一枝
哲 學	武内省三	簿記、商業政策	瀧澤喜子雄
心理學	內藤耕次郎	哲學、西洋倫理學	武内省三
英文學	村上喜貞	經濟史、經濟演習	田邊信太郎
獨 語	上道直夫	經濟史、經濟演習	武田藏之助
文 明 史	矢口孝次郎	海商法	竹田省彦
英文學	山田松太郎	會社法	谷口吉彦
教育學、教授法	三枝樹正道	國際經濟論、東亞問題	瀧谷善一
獨 語	三谷友吉	損害保險論	中川庸太郎
佛 語	三木治	景氣變動論	中村良之助
西洋美術史	菅守常	經濟地理、植民政策	中島玉吉
		親族法、相続法	村本福松
		經營經濟論	魚澄惣五郎
		日本文化史	上道直夫
		獨 語	野村次夫
		倉庫論	黒田覺
		政治學	柳瀬兼助
		國際私法	矢野仁一
		支那文化史	正井敬次
		經濟原論、經濟學演習	松岡孝兒
		貨幣論	福島四郎
		債權總論	近藤文二
		保險論	黒正巖
		日本經濟史	安藤光
		商法總則、手形法、小切手法	

經濟學科



第二大學豫科

國 語

(一) 次の文を解釋せよ。

大方苞き定めを守るはよき事なれども  
 そは事により物にこそよるべけれ繪な  
 どは必ずしも然るべからず他の其きを  
 見て移る能はざるはいとかたくななり  
 されど又家の法と言ふ中にいとどよろ  
 しくまことに屋上を去つて内を見する  
 事雲をへだて、遠近をわかす事さるべ  
 き事にてその法に外れてはいと悪しき  
 事も多く今の心に任せて晝散らす繪と  
 もの及び難き事も多かりかし

(二) 次の文に誤あらば正せ。

- (1) 未だ試験を終らず。
- (2) 住所を知らず事を忘るゝな。
- (3) 河へ飛び込み海にと泳ぐ。
- (4) それらしひ人は見へませむでし  
た。
- (5) 止めよふかと思ひますがやはり  
行きました。

(三) 次の語に漢字を宛てよ。

- (1) テンチカイビヤク
- (2) ケンキヤウフクワイ
- (3) フンコツサイシン
- (4) セツシヤクワン
- (5) ヒブンカウガイ
- (6) コクホカンナン
- (7) カンブンコウキ
- (8) キヨハウヘン
- (9) ケンミンフバツ
- (10) ロウシフダハ

取引所及市場論	佐伯三郎	西洋倫理學	武內省三	獨語	三谷友吉
破產法、債權各論、物權法	齋藤常三郎	商業史、經濟史	田邊信太郎	銀行論、金融論、商業學演習	森川太郎
民法總論	木村健助	海商法	武田藏之助	簿記	須藤文吉
刑法總論、刑法各論	宮本英脩	合社法	竹田省	會計監查	陶山誠太郎
經濟演習	三谷道麿	東亞問題	谷口吉彦		
獨語	三谷友吉	損害保險論	瀧谷善一		
外國爲替、商業數學	三木純吉	景氣變動論	中川庸太郎		
銀行論、金融論、商業學演習、英語經濟學研究	森川太郎	經濟地理、植民政策	中村良之助		
外交史	末廣重雄	親族法、相続法	中島玉吉		
簿記	須藤文吉	經營經濟論	村本福松		
會計監查	陶山誠太郎	日本文化史	魚澄惣五郎		
		獨語	上道直夫		
		企業論	野村次夫		
		日本經濟史	黑正藏		
		英語經濟學研究	矢口孝次郎		
		國際私法	柳瀨兼助		
		支那文化史	矢野仁一		
		經濟原論、經濟學演習	正井敬次		
		貨幣論	松岡孝兒		
		債權總論	福島四郎		
		國際經濟論	古屋美貞		
		保險論	近藤文二		
		商法總則、手形法、小切手法	安藤光		
		取引所及市場論	佐伯三郎		
		破產法、債權各論、物權法	齋藤常三郎		
		民法總則	木村健助		
		商業英語	水谷揆一		
		民法總論、刑法各論	宮本英脩		
		外國爲替、貿易實務論、企業財務論、商業學演習、商業數學、英語經濟學研究	三木純吉		
		財政學、經濟演習	三谷道麿		
			日本史		
			英文		
			獨語		
			西洋史、世界現代史、地理		
			內藤耕次郎		
			村上喜貞		
			村田數之亮		
			上道直夫		
			山田松太郎		
			安川安太郎		
			藤澤章次郎		
			木村武夫		



第一大學豫科

漢文

一、左の文章に送假名を附し且つ一符のある句を解釋せよ

海勢不可不豫備。然環海之廣、其可<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>盡爲<sub>レ</sub>防禦一乎。莫<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>固<sub>レ</sub>結民心<sub>一</sub>以爲<sub>レ</sub>金城湯池。沿海皆能如此外寇不足爲<sub>レ</sub>虞。不然雖設<sub>レ</sub>數萬巨楨<sub>一</sub>亦足以資<sub>レ</sub>寇攻<sub>レ</sub>耳。

二、同上

凡事有<sub>レ</sub>似<sub>レ</sub>有功而無<sub>レ</sub>功。有<sub>レ</sub>似<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>弊而無<sub>レ</sub>弊。況於<sub>レ</sub>經<sub>レ</sub>數年<sub>一</sub>見<sub>レ</sub>效之事<sub>一</sub>。宜<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>察<sub>レ</sub>其終始<sub>一</sub>而後做起<sub>レ</sub>。不然功必不<sub>レ</sub>完。或中廢至於不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>償。

英文和譯

(I) Words, when well chosen, have so great a force in them, that a description often gives us more lively ideas than the sight of things themselves.

(II) We must have a deep sense of responsibility. We must believe in the power and vitality of truth, and in all we do or say, should be anxious to express as much truth as possible.

(III) Much of the best work in the world is done by those whose names remain unknown, who work because life's greatest bliss is work, and who

詔勅、國民道徳  
三枝樹正道  
三谷友吉  
廣瀬捨三

第二大學豫科

英語 八島治一  
獨語 畑中伊三郎  
日本史、西洋史 西井克巳  
英語 堀正人  
獨語 本庄實  
倫理、論理、獨語 大小島眞二  
佛語 大坪一  
漢文、漢習 岡本勝治郎  
英語 大平頼母  
物理化學、數學 河村信一  
佛語 賀來俊一  
哲學 武内省三  
國語、漢習 金子又兵衛  
自然科學 竹脇又一郎  
獨語 田中健三  
獨語 中村鄧次郎  
地理 中村眞之助  
英語 村上喜真  
西洋史、世界現代史 村田數之亮  
佛語 三木治  
獨語 上道直夫  
法制 植田重正  
英語 山田松太郎  
獨語 安川安太郎

專門部第一部

漢文 藤澤章次郎  
詔勅、國民道徳 三枝樹正道  
經濟 三谷友吉  
英語 水谷稜一  
英語 廣瀬捨三  
英語 杉平顯智

法律學科

社會學 岩崎卯一  
物權法 入江眞太郎  
民事訴訟法 小野木常  
獨語 奧宮精一  
會社法 大隅健一郎  
佛語 加藤金次郎  
國際公法、英語 川上敬逸  
憲法 吉田一枝  
保險法 武田藏之助  
行政學論、行政各論 中谷敬壽  
民事訴訟法 中田淳一  
論理學、心理學、英語 中西章  
東亞問題 中村眞之助  
刑法各論、刑法各論、刑事訴訟法、  
刑罰特殊問題 植田重正  
法制總論、海商法、商行爲  
手形法、小切手法 野村次夫  
國歲胤臣

經濟學科

民事訴訟法 山田正三  
民法總論、親族法、國際私法 柳瀨兼助  
英語 安田恭平  
債權各論 山木戸克巳  
經濟原論、倫理學 正井敬次  
法制史 牧健二  
債權總論、法學通論、相續法 福島四郎  
倫理學 藤澤章次郎  
支那語 有馬健之助  
破産法、和議法 齋藤常三郎  
財政學、英語 三谷道廣  
獨語 三谷友吉  
佛語 三木治  
哲學 菅守常

社會學 岩崎卯一  
工業政策 磯部喜一  
獨語 奧宮精一  
物權法 和田豊二  
佛語 加藤金次郎  
政治學 川上敬逸  
交通論 河村宜介  
憲法 吉田一枝  
保險論 吉川貫二  
商業通論 瀧澤喜子雄  
經濟地理、植民政策、東亞問題、  
外貿貿易、海外經濟事情、英語 中村眞之助  
中川府太郎

專門部第一部

require no reward beyond the consciousness that they have enlarged the knowledge of mankind and contributed their share to the final triumph of honesty and truth.

日本史  
源氏物語  
關所  
江戸時代に於ける日蘭關係

法律學科・經濟學科・高等商業學科  
國語

一、左の文中の傍線箇所を解釋せよ。  
 頃は二月の十日あまりなるにかの  
 見ゆる岡への雪はなほきえのこりな  
 がらうちかすむ森の梢どもは 春の  
 光うちわたりて (一)そこはかとなく聞  
 ゆる鶯の聲も人くといとふにはあら  
 で 我を呼ぶなるここのすめるは  
 (二)こころゆく々なり  
 二、左の語の右傍に讀假名をつけ、且つ  
 解釋せよ。  
 (一) 仙洞  
 (二) 樽組折衝  
 三、左の文中片假名の語を漢字にて表す  
 べし。  
 ノコギリでキリ、カンナでケヅリ、  
 ノミでテウロクして、ウルシをヌツ  
 て、シアげる。

專門部第二部

英文國語

(I) We were crossing one of the bridges and I stopped and looked at the sun sinking, while I tried to wipe out my tears. He stood there by me, and was quiet for a few minutes. When he spoke, hardly recognized his voice, it trembled so much.

(II) The period of British naval supremacy has definitely come to an end. Britain's insular position no longer ensures to her the security she once enjoyed. The rapid growth of air-transport exposes her to the perils of invasion. Nor is this all. Her utter dependence upon supplies of food from overseas exposes her to frightful and sudden disaster by means of submarine attack upon her shipping.

專門部第二部

法律學科

國語

(一) 左ノ文ヲ平易ナル口語ニテ解釋セヨ。

何わざにまれわれとひとしみなならむと見ゆる人ははるかにまさりおとれりと見ゆるもなほ劣らぬぞ多き人のうへの見おとさるはなべての人のおのづからなる心にしあればようせずばおもひあがり思はぬあやまちもしいでつゝし

法律學科

岩崎 卯一	入江 眞太郎	石田 文治郎	井上 隆證	原田 鹿太郎	西村 嘉三郎	西田 禎文	德永 清行	富田 仲次郎	小川 忠藏	與宮 精一	渡邊 宗太郎	川上 敬逸	賀來 俊一	吉田 一枝	武田 藏之助	中谷 敬壽	中西 章	村上 喜真	植田 重正	野村 次夫	柳 瀬兼助	牧 健二	福島 四郎	古屋 美貞	藤本 進治	小山 慶作	黃 廷富	
社會學	物權法	民法總則	論理學、倫理	論理學、倫理	論理學	論理學	倫理學	東亞問題	刑事訴訟法	英語	獨語	行政各論	國際公法、英語	佛語	憲法	保險法	行政總論	心理學	英語	刑法各論	商法總則、商行爲	國際私法、親族法	法制史	法學通論、相續法	經濟原論	獨語	民事訴訟法	支那語

高等商業學科

中西 章	國 歲胤臣	矢口 孝次郎	安田 信一	山木 戶克巳	正井 敬次	福 島四郎	古屋 美貞	藤澤 章次郎	有馬 健之助	佐 伯三郎	菊 田太郎	水谷 揆一	三谷 友吉	三木 純吉	三木 治	三谷 道磨	廣 瀬捨三	森 川太郎	菅 守常	磯 部喜一	西田 禎文	西村 勝太郎	茶 谷忠治	與 宮精一	大橋 光雄	和 田豊二	加藤 金次郎	河村 宣介	河村 信一	
心理學、論理學	商法、合社法、手形小切手法	經濟史、經濟學史、英語	英 語	民法總則	經濟原論、論理學	債權總論	特殊經濟問題	倫理學	支那語	日本經濟史、取引所市場論、英語	統計學	英語	商業政策、獨語	銀行爲替	佛 語	財政學、社會政策	英 語	貨幣金融論、英語	哲學	工業政策	修身	商業數學、商業英語	漢 文	獨 語	手形法、小切手法	物權法	商業簿記、經營學、佛語	交通論	數學、商品學	
英 語	商業通論、商業史	保險論	商業地理、東亞問題	海外經濟事情、外國貿易、英語	心理學、論理學	法學通論	倉庫稅關論	商法、合社法	英 語	民法總則	國語、商業作文	英語	債權法	修身	修身	支那語	取引所市場論	統計學	商業英語	銀行爲替	佛 語	珠 算	財政學	商業政策、獨語	農業政策、植民政策	商業英語	貨幣金融論、經濟原論	哲學	銀行簿記、工業簿記、原價計算	會計學、會計監査
片岡 甚太郎	龍澤 喜子雄	龍谷 善一	中村 良之助	中川 庸太郎	中 西 章	植田 重正	野村 次夫	國 歲胤臣	矢口 孝次郎	柳 瀬兼助	安川 安太郎	安田 恭平	山木 戶克巳	正井 敬次	藤澤 章次郎	有馬 健之助	佐 伯三郎	菊 田太郎	水谷 揆一	三木 純吉	三木 治	三島 律夫	三谷 道磨	三谷 友吉	靜 田均	森 政造	森 川太郎	菅 守常	須 藤文吉	陶山 誠太郎





國語漢文專攻科

國語	飯田正一	國民道德、實踐倫理
東洋史、日本漢學史	石濱純太郎	
言語學	今川太郎	
倫理學	西田禎文	
西洋史	西井克己	
漢文	本田成之	
漢文	土橋文夫	
漢文、漢作文	茶谷忠治	
英語	小川忠藏	
經濟原論	河村宜介	
法制史、憲法	吉田一枝	
英語	吉田庄太郎	
文學理論、國語	吉永登	
國語	吉澤義則	
漢文、支那文學史、支那哲學史、國文法	高橋盛孝	
國語學、國文學史、國語學	田中健三	
心理學、論理學	中西章	
法學通論	植田重正	
國語	山田松太郎	
國語、國學	安川安太郎	
漢文、漢作文	藤澤章次郎	
有職故實、國史	江馬務	
教育學、教授法	三枝樹正道	
國語	平林治徳	
英語	廣瀬捨三	
哲學	菅守常	

英語專攻科

國語	飯田正一	國民道德、實踐倫理
言語學	今川太郎	
東洋史	石濱純太郎	
西洋史	西井克己	
英語	細江逸記	
英語	所勇	
文學概論	大坪一	
英文作文	小川忠藏	
經濟原論	河村宜介	
佛語	賀來俊一	
英語、英文學史	片岡甚太郎	
英語	角田文雄	
法制史、憲法	吉田一枝	
漢文	高橋盛孝	
國語	田中健三	
心理學、論理學	中西章	
英語會話	名井民雄	
法學通論	植田重正	
英語、英文法	山田松太郎	
英語	安田恭平	
國語	安川安太郎	
獨語	藤本進治	
國語	江馬務	
教育學、教授法	三枝樹正道	
英語學、英語史	杉平顯智	
英語	廣瀬捨三	
哲學	菅守常	
英文作文	鈴木富太郎	

between the number born up to that moment and the number deceased up to that moment. If we know these numbers we should also know the population of the earth. Unfortunately we do not know them.

經濟學科・商業學科

國語

一、次ノ傍線ノ部分ヲ解釋セヨ。

① うらうらと明くるおしたより物のけは  
 ② ひ敗りて大路も遙かに霞むものから  
 ③ ④ 滴う見渡さるるにふりはくじり行き交  
 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

二、次ノ句ノ漢字ニ假名ヲツケ、且ツ解釋セヨ。

1. 矛盾暴露
  2. 水泡に歸す
  3. 禍根を爰除す
  4. 隠忍久しきに彌る
  5. 初陣の槍舞臺
- 三、次ノ傍線ノ部分ニ漢字ヲアテヨ。  
 勇猛クワカンなる我が航空隊はフカク敵地にトツニフし急にヒミツ基地をオソソ軍事シセツに大ダゲキをアタへて大に皇軍のキリヨクをハツキセリ

英文國語

(I) a) The current of history runs eternally. And yet, its pace of involvement is not constant. At times, it flows over rapids, sometimes over great cascades.  
 b) Revolution and war may be compared to rapids and cascades in the river of history. The two great conflicts progressing to-day are also pressure points in history's ever-fluxing current.

(II) Just as the investment of billions of French francs in the Magnot Line proved to be useless against the spirit of assault, the thoroughness of the German armies, the gigantic fortifications of Singapore, built up over a period of years with British wealth of money and material, failed against the boldness and self-sacrificing spirit of Japanese soldiers and airmen.

國語漢文專攻科・英語專攻科

國語

- 一、左の文を解釋せよ。  
 心づきなきもの物(もゆき寺へも詣るる日の雨使ふ人の我をばおぼさずながしこそただ今の時の人などいふをほのききたる
- 二、左の文中に誤あらば、誤の箇所を傍線をひきその右傍にこれを正せ。  
 (一) 此の所へ廳を築つるへからず。

校友欄

本間俊平先生を招聘

「皇國民の使命」拜聴

三月講演會盛大に終了

三月講演會は月末の三十一日午後六時中より天六學舎集會室に於て開催、はからずも來阪中の宗教界の第一人者本間俊平先生を講師として「皇國民の使命」を拜聴したが、同夜は多數校友の出席さるゝあり、同師の大いなる體驗と信仰の力をひし／＼と身に感じつゝ、有意義に終了した。

南京支部發會式

關西大學校友會南京支部の發會式は大捷の新春一月四日午後二時より鼓樓公園近くの日本總領事館官舎に於て開催した支部創立に就ては昨年中より特に校友赤座兵衛氏の熱心な希望や大陸各地支部の活躍に刺戟され是非國民政府首都南京にもの熱望から今回發會となつたものである。

當日は北陸三縣聯盟でお馴染の安田倫藏氏が軍服姿も堂々と上官谷川宗吉氏と參會せられ現地らしく總會を一層盛ならしめ、支部結成に關し種々討議決定の後屠蘇を祝ひ煮メをつまみながら母校を語り校友を憶ひ時局談のカクテルに和氣霽々として學歌を合唱、午後六時半散會した。

事務所 南京市鼓樓四條巷西橋二號、

宮口方

支部長 宮口孝司

尙南京には單人、在留民中に多數校友が居られる模様なるも調査中。

奉天支部

二月例会

二月の例会は二十二日午後六時半より平安廣場の明治製菓グリルで開催した、集まるもの出井、堀澤、寺町、西川、古賀、中村(屯)、黒田、飯田、辻、五島の諸君、話題はシンガポールの陥落、大東亞戰爭の將來から家庭生活の味、人生觀、満人觀などに花を咲かせ眞實を吐露して語り合ひ午後九時頃散會した。

會員消息

氏名下の數字中、漢字は大正年數、算用數字は昭和年數を16前は三月、16後は十二月卒業を示す、又括弧内にある消息は業務勤務

大 法

穂田 定治(5) 東京市瀧野川區西ヶ原町八二七、朝日荘内(小石川區西原町二一〇、日の丸ビル製作所)

有田 米雄(14) 兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾渡り瀬八一(西淀川區佃町五ノ八、

日本農藥會社)

小野 靖夫(14) 神戸市灘區神前町九ノ七ノ上二六(大阪市東區京橋町三ノ七八、第一生命保險相互會社中部監査部)

尾崎 政明(12) 滋賀縣蒲生郡八幡町魚

(二) 死ぬば語共後ればせずと、さしちがへてぞ死にてけり。

漢 文

一、左ノ文ニ返リ點送りカナマツケ、解釋ヲ施セ。

人做事。須就其事。自揆我最與キ典力之可及。又把事之緩急。與齡之老壯相比照。而後做起。不然。差意下手。殆不免狼狽。

國語漢文書式

英 文 國 譯

(I) As it was getting late we asked the farmer to lend us a pony and show us the way home. He appeared to understand and graciously received a gift of money, our remaining cigarettes, and some chewing-gum that we happened to have in our pockets.

(II) Our little group was composed of Europeans, Japanese, and Indians, all of whom were in Thailand for the first time, and I think the beauty and strangeness of the Thai temple architecture made an equally strong impression on all of us. The sky was cloudless, and, although late in the afternoon, it was still very hot. The last rays of the sun reflected from the golden eaves of the roofs and from the many towers, each of a different colour.

英語漢文書式

英 文 國 譯

(I) The rainy season was in full swing. At short intervals lukewarm water splattered down on us. I gave up any attempt to seek shelter under the straw roofs from the torrents of water. It was pleasantly warm, and when it stopped and the view became clear again the scenery captivated me.

(II) Silence followed this remark. It was of the eldest daughter he had spoken. She had gone to America in early spring. Since then they had only received one letter from her. A neighbour's daughter had written home recently, though, saying that she was without work. She had left the first place that a priest had found for her, as servant in a rich merchant's house.

國 文 英 譯

(III) 南太平洋における勝々たる戦果の報を聞くごとに、それらの地域はかつて我々の祖先が海外發展を企てた土地であることに、想いを致さなければならぬ。

屋町(近江兄弟社勤務部)

大橋 米(15) (中津署經濟保安課)

木下 清(13) 東淀川區中津濱通四ノ

四共立製菓會社)

久村 英夫(2) (神戸市立商業青年學

校長)

小堀 登(13) 東野と改姓、東京市在

原區小山四ノ八五(厚生省保險院簡易

保險局積立金貸付課第二貸付係)

清水 定勝(四) 仙臺市新小路二二

竹内徳次郎(16前) 兵庫縣武庫郡御影町

郡家庄田二二二ノ五

藤本 敏男(16前) 東淀川區南濱町二ノ

三〇(發動機製造會社)

法覺 豊松(15) 岡山市下出石町一〇五

土方健彦方(岡山地方裁判所)

水間 通夫(16前) 東京市品川區大井坂

下町二七七

富田 八東(6) 西成區千本通五ノ一

(辨理士、富田商會主)

山崎福太郎(12) 小倉市上富野神幸町一

四八七(朝日新聞西部本社營業局)

岩臨 明光(8) (河北省樂亭縣南關東

街、中華民國新民會樂亭總會事務所參

事)

小野田一正(16後) 京城市新堂町四三〇

朝運寮(朝鮮運送會社自動車部業務課

企畫係)

金 晋 根(16後) 金山と改姓、東成區

南中道町一ノ五〇(大阪協和協力會書

記長)

栗本 義重(11) 東京府北多摩郡三鷹町

幸禮四四五、井園住宅

坂井 三郎(16前) 住吉區桑津町四六三

(大阪市立難波河原高等家政女學校)

西 義次(16後) 神戸市須磨區五位ノ

池町二ノ一(兵庫縣北神商業學校教諭)

大 哲

神田 孝助(14) 奈良縣生駒郡伏見村西

大寺(日本更生草製品會社、神田商店

嚙託)

金子堅太郎(16後) 兵庫縣武庫郡鳴尾村

四三、同潤莊内(野村信託會社)

菅 桂(7) 廣島市比治山本町(西

部軍經理部廣島出張所)

中島 光夫(15) 西區阿波堀通三ノ一、

岩崎市之助方

松浦 孝一(16後) 東京市下谷區上根岸

町五七、小幡方(日本機械器具工業組

合聯合會)

大 南

杉山 健一(12) 港區吾妻町二ノ五(大

阪酸業工業會社)

奈良 忠雄(9) 浪速區芦原町一一七三

(カガン化粧品本舖丸善商店)

西本 啓兒(8) 新京崇智胡同六一二、

湯畑正一方(新京中央通四三、康徳新

聞社理事長室)

專 一 法

寒川 喜一(8) 東成區片江町二ノ二五

(淀川國民職業指導所)

玄 仁 洪(14) 延山仁彦と改姓名、東

淀川區南濱町三ノ一九

棉 武城(16前) 北區神山町三二

專 一 經

松崎 義雄(16後) 長崎市本河内町一

(長崎商工會議所事務所)

松原 章(16後) 吹田市苑池町一ノ二

三〇九、桑山方(大阪纖維製品配給會

社統制部)

專 一 商

井上 二郎(9) (神戸市役所財務部財

務課)

石塚孫太郎(16) 神戸市林田區海運町六

ノ三九(大連汽船退社)

島 寛(15) 京城市淡江通三ノ六三

星友寮(朝鮮運送會社)

八田 幾藏(16) 東京市本郷區臺町三九

双葉館内(明治大學在學中)

平松 從一(3) 東區内久寶寺町二ノ九

星川 清典(12) 尼崎市西本町北通四ノ

一〇六(尼崎製鋼所)

松井 金藏(16後) 富山縣下新川郡櫻井

町前澤

松下 義夫(16前) 佐賀縣杵島郡住ノ江

港、山崎範作方(朝鮮商業銀行)

山下 博(16前) 北區東野田町七ノ七

(大阪鐵道局宮原機關區事務所統計係)

專 二 法

網谷 晴次(7) (和歌山市六番丁五、住

友銀行和歌山支店)

打田要三郎(11) 旭區絲小路町五ノ五二

(中井組技術部)

大塚 重延(2) 長崎市伊良林町二ノ六

九二(河西ツル千方

坂田 太郎(16後) (神戸市坪合區御幸

通二ノ六、第一貿易ビル内飼料配給會

社神戸支店)

門上 敏夫(12) 北區鳴尾町三三(大阪

翼贊會大阪府支部組織部)

喜田 隆久(3) 西宮市東町三ノ九三

(大阪市機械製作所尼崎工場)

喜田 武夫(3) 西宮市東町三ノ九三

北村清太郎(四) 福山市松山町、福山營

林署長官會(同上署長)

眞田 俊雄(明38) 臺南市竹園町一ノ六

大阪辯護士會役員中の校友

松本 靜史(明39專法) 今回大阪辯護士

會長に就任

宮崎 秀夫(大6專法) 大阪辯護士會

中村源次郎(大9專法) 副會長に就任

改 姓 名

昭十專一法 小堀 登 東野 登

昭十三 大法 曹 貴 石 森 信義

昭十一專二法 西井 大三 岡本 大三

昭十三專二商 山田 孝太郎 河田 孝太郎

昭十四專一法 玄 仁 洪 延山 仁彦

昭十四專一法 金 晋 根 金山 晋根

昭十六 大法 金 晋 根 金山 晋根

計 音

淺見 敏郎(昭4大商) 逝去、遺族は尼

崎市神田南通五ノ一四三

稻村 金藏(昭5大法) 逝去

八木 保夫(昭10專二經) 逝去

村上 健五(昭10專一法) 十七年二月七

日逝去